

5.1 平常時の準備(材料の入手、備蓄量・場所)

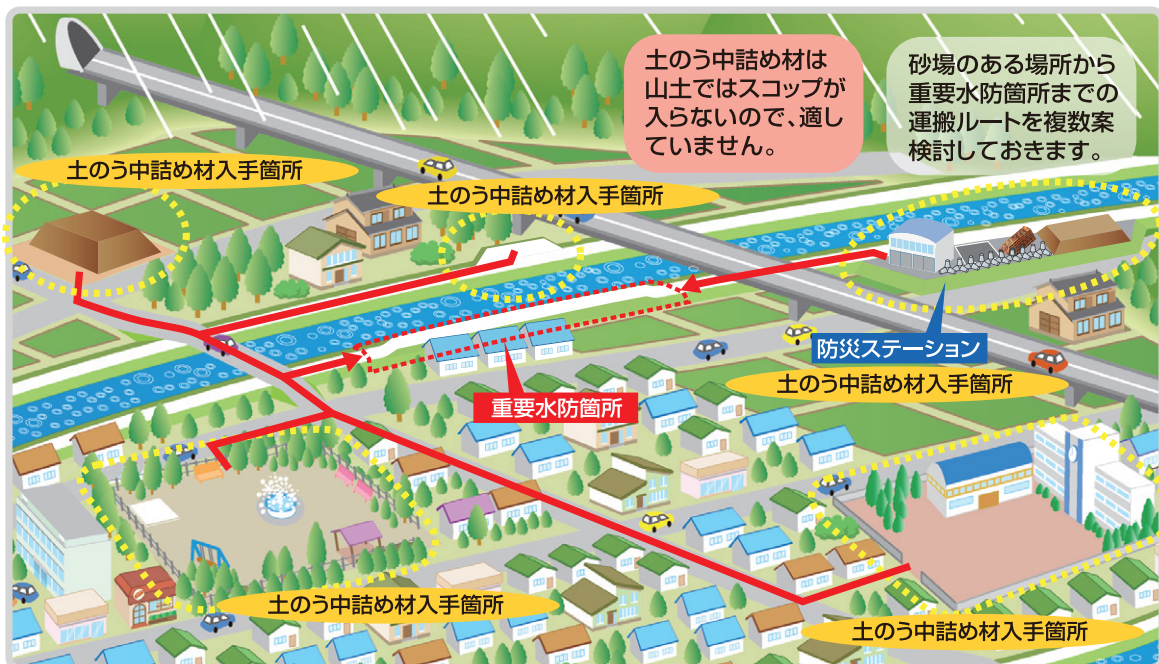
(1) 木流し材(竹流し材)の入手について

事前に川沿いの木材(竹材)入手箇所を調査し、関係者に周知しておきます。



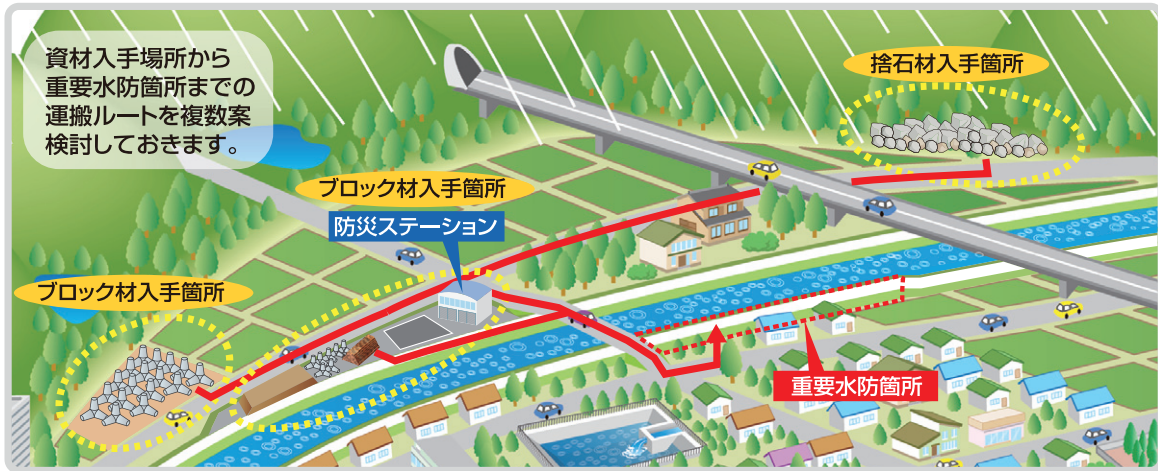
(2) 土の中詰め材の入手について

中詰め材を事前にストック又は調達先を調査し、関係者に周知しておきます。



(3) 捨石・大型ブロック材の入手について

捨石等を事前にストック又はブロック材等の調達先を調査し、関係者に周知しておきます。

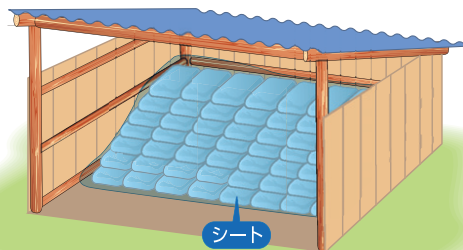


(4) 土のうのストックについて

初動時の対応として、ある程度の数量の土のうをあらかじめ製作し、ストックしておきましょう。特に堤防が低い所では、予め近傍に土のうをストックしておくのが有効的です。

土のうが堅くならないためには、日除け、雨除けを行う必要があります。非常時の備えとして、屋根付き資材置き場を設置しておくことが効果的です。

参考例
毎年、水防訓練で製作した土のうをそのままストックしておく地域がありました。



注意する点

- 土のうを長期間保管しておく中詰め材が固まり使用できなくなります。定期的に点検し、基本的には毎年作り替えるようにします。
- 屋根付きの保管場所でも、土のうが乾燥し固まる場合があります。シートで覆うなどの対策が必要です。
- 土のうだけでなく、シート等も直射日光により劣化します。これらの保管にも注意しましょう。

(5) 土のうの製作について

確実に運搬路が確保できる場合は、屋根や照明設備のある倉庫等で土のうを製作し、現場まで運搬する方法が効率的な場合があります。現地状況に応じ、より良い方法を選択してください。



5.2 平常時の点検・巡視

(1) 水防資材の常備品

常に水防資材の点検・補充等を行い、不足な資材については補充します。

また、水害時に備え、砂や重機の調達についても配慮する必要があります。



(2) 日ごろの巡視・情報共有

河川や海岸等を巡視し、水防活動上危険であると認められる箇所があるときは直ちに管理者に連絡して改善を求めます。

また、水防計画や重要水防箇所、浸水想定区域図・ハザードマップ等の情報を常に最新のもの把握しておき、河川管理者との情報共有が重要です。



■水防計画

水防上必要な監視、警戒、通信、連絡、輸送及びダム又は水門等若しくは閘門の操作、水防のための水防団、消防機関等及び水防協力団体の活動、水防管理団体間の協力及び応援、水防のための活動に必要な河川管理者、下水道管理者の協力、水防に必要な器具、資材及び設備の整備及び運用に関する計画についての大綱を示したものです。

■重要水防箇所

堤防の決壊、漏水、川の水があふれる等の危険が予想される箇所であり、洪水等に際して水防上特に注意を要する箇所のことをいいます。

■浸水想定区域図・洪水ハザードマップ

平常時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知るために、浸水想定区域図として、計画降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域・水深を公表しています。

また、洪水予報等の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載した洪水ハザードマップを作成しています。

5.3 出動前(安全対策、装備)

(1) 水防団員の常備品

ヘルメット

懐中電灯 (できれば赤キャップのもの)

雨合羽 (フード付き)

ライフジャケット

笛

命綱

携帯ラジオ (電池式で小型のもの)

医療器具

連絡用マイク

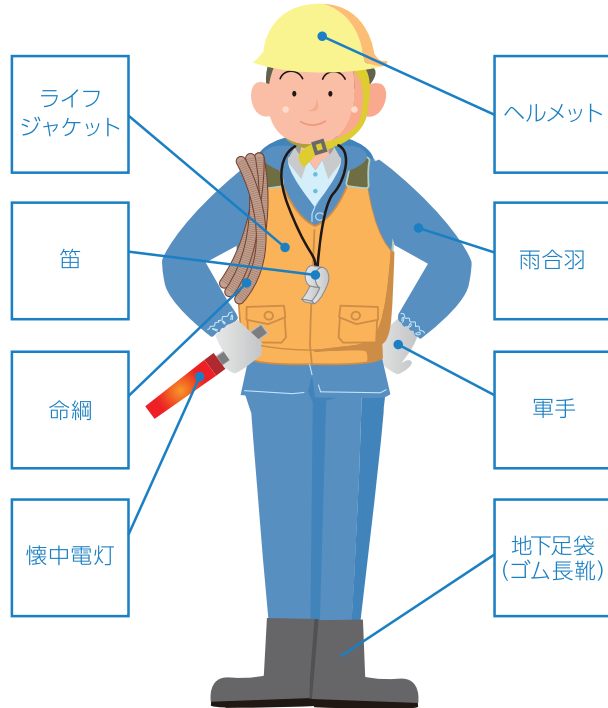
軍手

手ぬぐい

無線通信機器又は携帯電話
(情報先の登録等)

地下足袋 (ゴム長靴)

(現場は水を含んだぬかるみ状態です。
足元がズブズブに入る認識が必要です)



手ぬぐい

連絡用マイク

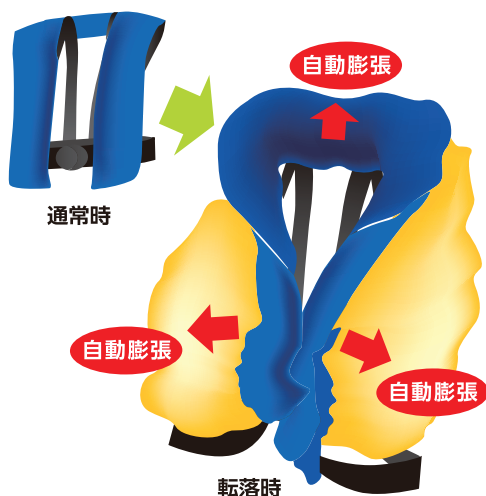
医療器具

携帯ラジオ

無線通信機器

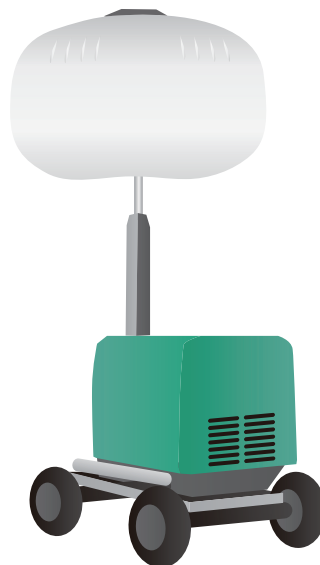
ライフジャケット (自動膨張式救命胴衣)

従来のライフジャケットは着用時にかさ張り、返って作業の支障となる場合がありますが、作業時には薄く、川へ転落した際に自動膨張するタイプが開発されています。



バルーン投光機

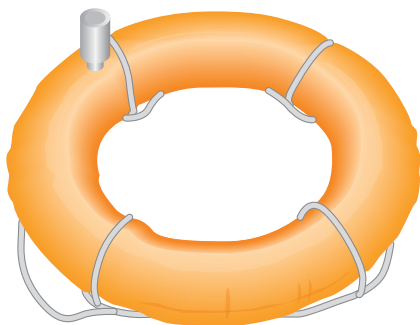
夜間の活動時には、作業場を十分明るくすることが安全面から特に重要です。眩しさが少ない光で360度全方向を照らします。



水防活動時に作業員が川へ転落することがあってはならないことですが、万一転落した場合を想定し、救命浮輪等の救出器具を準備しておくことは非常に重要です。

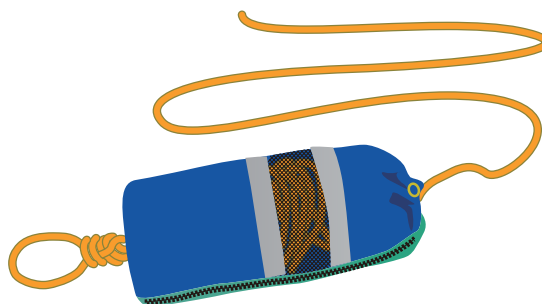
救命浮輪 (自動膨張式救命浮輪)

落水した瞬間に自動膨張する救命浮輪



スローロープ

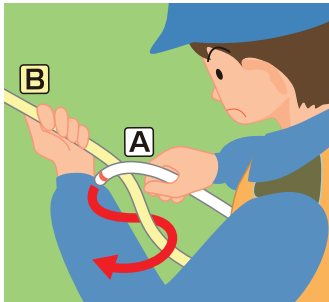
水に浮くロープとバッグが一体となった製品で漂流者の救出に使われます。



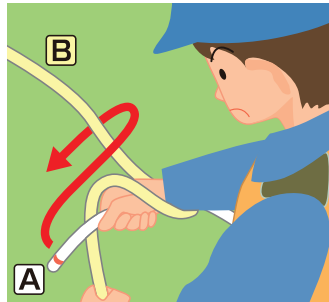
命綱の取り付け/サポート方法

(1) 命綱の取り付け方法 命綱は作業者だけでなく、サポートをする人も命綱の装着を!

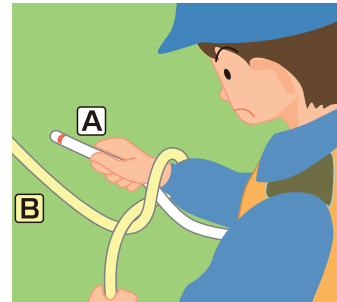
1 腰にロープを回しAロープの端を持ったままBロープの上から内側へ手首をひねります。



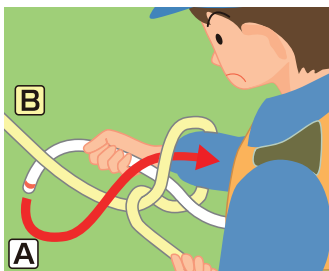
2 手首の内側をひねるイメージ。



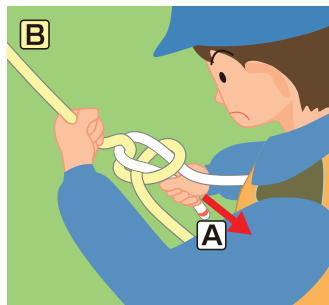
3 Aロープを持ったままBロープの輪の中にある状態になります。



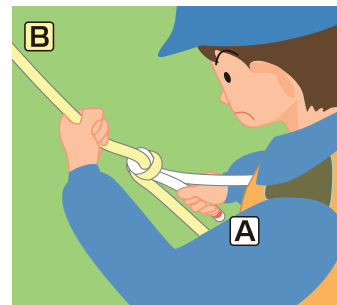
4 Aロープを持ったままBロープの下へ回し、Aロープの端を持ち輪の中から手を抜きます。



5 BロープとAロープを反対方向へ引き締めます。



6 身体へ命綱結びつけ完了。



(2) 命綱のサポート方法

サポートする人は、十分安全な場所に立ち、命綱をしっかり保持します。命綱が作業する人や自分自身の体に絡んだりしないよう、周囲の状況に十分気を配ります。

